

別記第1号様式(第7関係)

## 会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区自殺対策計画推進会議
事務局（担当課）		池袋保健所健康推進課
開催日時		令和4年9月2日（金） 午後2時～3時
開催場所		豊島区役所本庁舎5階 会議室 507.508
議 題		(1) セーフコミュニティ自殺うつ病の予防対策委員会の報告 (2) 豊島区自殺対策計画の進捗状況報告
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	保健福祉部長（委員長）、池袋保健所長（副委員長）、区民部長、セーフコミュニティ推進室長、区民相談課長、治安対策担当課長、男女平等推進センター所長、地域区民ひろば課長、税務課収納推進担当課長、国民健康保険課長、高齢者医療年金課長、生活産業課長、自立促進担当課長、障害福祉課長、生活福祉課長、西部生活福祉課長、介護保険課長、健康推進課長（代理）、長崎健康相談所長、子ども若者課長、子育て支援課長、子ども家庭支援センター所長、指導課長（代理）、教育センター所長（代理）
	事務局	健康推進課精神保健グループ

# 審 議 経 過

No. 1

委員長

自殺対策計画は区の関連事業を広く生きることの包括支援に位置付けている。セーフコミュニティ活動の一環として分野横断的な活動に取り組む自殺うつ病の予防対策委員会と、全庁的な進捗管理を目的としたこの会議との間で報告と連携を行う。自殺対策の効果的な実行のために各取組の実施状況を把握して課題の整理や見直しを行う。

～議事（１）セーフコミュニティ自殺うつ病の予防対策委員会の報告～

- ・7/29 にセーフコミュニティ再々認証審査を受けた。
- ・委員会の予防対象は「子ども若者」「中年期」の2つに設定。
- ・2020年の自殺死亡率は国 16.4、都 14.9、区 18.6。区は近年増加傾向にあるが10年前（2010年）の自殺死亡率26.5と比べると減少。
- ・2016年～2020年の自殺者数は20代、50代が多い。男性が多い。

自殺未遂者数は20代から40代が多い。女性が多い。

- ・主な対策活動は東武鉄道・池袋警察署と協働した啓発キャンペーンでの相談窓口周知、ゲートキーパー講座、区内大学生と協働した若者相談会など。

～議事（２）自殺対策計画の進捗状況報告（抜粋）～

① 豊島区子ども虐待防止ネットワーク事業について

要保護児童対策地域協議会を設置し、児童虐待に関する相談や通告を受けて関係機関と連携しながら見守りと支援を実施。ネットワーク会議は月に1回、代表者会議は年1回実施。昨年度の会議はZOOMを併用しながら予定していた会議を全て実施した。

② 『教育都市としま』を担う人材育成事業について

教員の指導力、資質能力向上のため研修を実施。「タブレット、SNSによるいじめ」が問題になっているので、生活指導主任研修としてタブレットの扱い方について指導。いじめ、不登校対策研修も実施。生活指導の基本、応用など年次別に研修を実施。子どもへの教育では、道徳や学活の時間で命の大切さや人間関係作りについて取り上げる他、SOSの出し方に関する教育、学級満足度調査を行い、人間関係作りやいじめの早期発見に努めている。

③ 多様な性自認・性別指向の人々への理解の促進について

職員向けイーラーニング、区内事業所に対して多様な性自認・性的指向に関するハラスメントの出前講座を実施。企業向けリーフレットを作成し、区内事業所に配布。人権週間に伴いパネル展示を実施。東京レインボープライド2022では代々木公園において豊島区ブースを出して当事者を含めた来場者の方へ様々な啓発活動を行った。

## ④ 区民相談事業について

コロナ禍において非接触型の相談機会を拡充するため令和3年度からオンライン相談を導入。対面では緊張する、電話では顔が見えず不安、という方も利用しやすい。今後も利用促進を図る。勇気を出して相談に来た方に寄り添った対応をするため職員が日々情報共有を行い改善に努めている。

## ⑤ 中高生センター運営事業（青少年自殺対策事業）について

ジャンプ東池袋では帝京平成大学の学生と協働し若者相談会を実施。即興劇も継続し、参加者から好評。ジャンプ長崎のビジュアルワーク事業も継続し参加者人数も増加。若者の支援者向けのゲートキーパー講習も実施している。

## ⑥ 見守り支え合いネットワーク事業について

主に一人暮らしや高齢者のみ世帯の見守りを行っている。希望する方に対して地域の見守り活動協力員やシルバー人材センターの協力員が見守りや声かけを実施。高齢者アウトリーチ事業でも同じように一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯を支援。新聞販売店や生協の事業所と協定を結び異変があったときには連絡いただくなど重層的な体制をとっている。

## ⑦ 生活困窮者自立支援制度について

くらし・しごと相談支援センターでは、将来の不安や失業、借金などの相談を受け、就労支援、住居確保、給付金の支給などを実施。令和2年度の相談者は増加。令和3年度は少し落ち着いたが高止まり。今後も一人一人に寄り添った支援をしていく。

## ⑧ 企業と連携した啓発について

企業に勤務する人向けにゲートキーパー講座の実施や啓発資材を配布。東武鉄道、池袋警察署と協働した自殺予防キャンペーンではリーフレットを約700部配布。今年度は新たに食品事業者向け講習会や労働基準監督署の全国労働衛生週間説明会にて周知。

## ⑨ 精神保健に係る地区活動について

精神疾患の未治療や治療中断の方に対して、長崎健康相談所、池袋保健所の地区担当保健師が関係機関と連携して相談支援。アウトリーチ支援にも力を入れている。

## 質問、意見

・8月の夏休みが終わって学校が始まったが、長期休み明けの自殺や不登校対策に対してどのように対応しているか？  
→学期の初めに「こころのアンケート」をとり、子どもたちが抱える不安に対して教育センターの協力を受けながら対応している。

・くらし・しごと相談支援センターの報告にある自殺念慮者はどのように把握しているのか？

→窓口で相談の記録をつけている。「死にたい」等の相談内容だった方。過去死にたいと思ったことがあるかどうかではない。

・保健所では精神疾患のある方、自立支援担当課では引きこもりのアウトリーチ支援をしている。他にもアウトリーチ支援を行っている窓口はあるか。

→アシスとしま、子ども家庭支援センター、高齢者福祉課、障害福祉課

・くらし・しごと相談支援センターの相談の男女比は男性7女性3。女性の悩みはどこに行くのか。

→若い女性の相談先としてすずらんスマイルプロジェクトの活動を行っている。

提出された資料等	資料1 豊島区自殺対策計画推進会議設置要綱 資料2 委員名簿 資料3 セーフコミュニティ年間活動レポート 資料4 自殺対策計画進捗確認シート
その他	—